

# 日本語接続連鎖の先行構造に関する一考察\*

黒柳子生\*\*  
heiliuzisheng@hanmail.net

劉錫勳\*\*\*  
syoun@korea.ac.kr

## <目次>

- |             |                  |
|-------------|------------------|
| 1. はじめに     | 4.1 接続連鎖の先行語形    |
| 2. 先行研究     | 4.2 先行構造の品詞分布    |
| 3. 分析       | 4.3 接続類型の先行句品詞   |
| 3.1 考察対象と方法 | 4.4 意味機能ごとの先行句品詞 |
| 4. 考察       | 5. おわりに          |

主題語: 接続連鎖(Conjunctive Concatenation)、接続助詞(Conjunctive Particle)、先行構造(Pre-construct)、共起(Collocation)、品詞(lexical category)

## 1. はじめに

日本語の文章には、単純な内容を表す単文から、より複雑な内容を表現するために複数の文脈を一つの文章で表現する複文などが存在しているが、その際に用いられるものが接続助詞や接続詞などの接続表現である。接続詞は、独立した先行文脈の内容を受けなおし、後続文脈の展開の方向を示す表現であり(石黒;2008)、単語や節など様々な単位をつなぐ機能を持っている。接続詞が語形変化なしに単独で用いられる一方、もう一つの接続表現である接続助詞は、性質上、必ず直前に何らかの要素を同伴することで存在しえている。本稿ではコーパス資料を対象に接続連鎖の直前にどのような要素が先行しているのかを調査し、その出現様相を探ることで日本語の接続表現の一側面を解明するという点で有意義であると言えよう。

そのためにまず、接続助詞に共起する要素に関する先行研究<sup>1)</sup>として、中俣(2017)を挙げ

\* 본 논문은 2019학년도 고려대학교 문과대학 특별연구비에 의하여 수행되었음.(과제번호/K1907481)

\*\* 高麗大学校 言語学科博士、TLA主任講師

\*\*\* 高麗大学校 言語学科教授、交信教授

ることができる。さらに黒柳・劉(2018)では接続助詞と接続詞の両方が連立して出現する言語現象である接続連鎖について調査したが、その研究では接続連鎖において先行する構成要素である接続助詞にどのような要素が多く共起するののかについては、まだ言及されていない。

そこで本稿では『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を対象に、接続連鎖現象に先行して現れる語句を抽出し、その語句形態や品詞などの出現様相について調査することを目的とした。コーパスによる一次抽出だけでは、語形のような形態素による抽出が可能であるのみで、以下のような結果となった。

- (1) きっぱり言ったが、それでも少女は刀を引かなかった。
- (2) 私は幼なかつたが、それでもはっきり記憶しています。
- (3) 色はたしかに同じだつたが、それでも溶けて液体に変わったように見えた。
- (4) ピーターの声だつたが、それでもマイケルはぎくりとした。

これらの例文では全ての接続連鎖「-が+それでも」の直前に「た」という形態が先行しているが、例文(1)では「言う」という動詞が、例文(2)では「幼い」というイ形容詞が、例文(3)では「同じだ」というナ形容詞が、そして例文(4)では「声」という名詞がそれぞれ先行している。このようにコーパスで抽出できる語形だけでは「た<sup>2)</sup>」という形態の前に、さらにどのような要素が来るのかを予測することは容易ではない。また「です」の前には名詞も可能であればナ形容詞も可能であり、より詳しい分析が必要になる。そのために本稿は各接続連鎖の先行句先行する語形や品詞について調べ、接続連鎖の先行傾向を考察しようとするものである。

## 2. 先行研究

接続連鎖に関して具体的に扱った研究としては黒柳・劉(2018)が初めてであるが、それ以前にも接続表現の二重使用などとして、接続助詞と接続詞が連続して使用される現象に関

1) 前田(2017)、江口(2018)などがある。

2) 日本語の語形変化においては「た」の前にはイ形容詞、ナ形容詞や一部の動詞など、様々な品詞の語句が同じ形態素を共有しているためにだけでは先行句を予測することはできない。

する言及がなされた研究<sup>3)</sup>がある。それらの研究では以下の例文が示されていた。

- (5) 正月の三日とはいうものの、しかし、三十キロの渋滞はひどい。 加藤(1991)  
 (6) 太郎はすぐに戻ると言って出ていったが、ところが1時間経っても戻らなかった。 宮島・仁田(1995)  
 (7) 面白く無いけれどもシカシ幾程云ツても仕様が無いサ。 梅林(2017)  
 (8) その考えはけっこうだけれど、しかし二つの大きな難問があるよ。 黒柳・劉(2018)

加藤(1991)では「-ものの、しかし」の前には「いう」という動詞の辞書形がきていたり、宮島・仁田(1995)では、「-が、ところが」の直前には「出ていった」という動詞の過去形が先行している。梅林(2017)では、「-けれども、しかし」の前にはイ形容詞の否定形である「おもしろくない」という表現が先行しており、黒柳・劉(2018)の「-けれど、しかし」の前にナ形容詞である「結構だ」という要素が来ていることを示している。

このように接続連鎖には動詞や形容詞などのさまざまな要素が先行することが分かるが、これらがどのような割合で先行しているのかに関しては、管見の限り、まだ研究がなされていない。そこで本稿は接続連鎖に先行する語句の種類と品詞について調査を行うにあたり、中俣(2017)<sup>4)</sup>が、接続助詞に先行する語彙の品詞の偏りについてコーパスを対象に行った研究で、語別に動詞とイ形容詞、ナ形容詞と名詞のそれぞれ四つの品詞の先行頻度数を示していることから、本稿においてもこれら四つの品詞を基準に採用して分析を行った。

### 3. 分析

本稿では日本語における接続連鎖に先行する要素にはどのようなものが多いのかを調べるために、日本語のコーパス資料を利用して接続助詞に先行する語形を調査した。しかし先行語形だけではその語形が持つ品詞の判断ができないものが多く抽出されたために、ここでは先行する語形に先行する語句の品詞を調べ、それらを動詞、イ形容詞、ナ形容詞、

3) 加藤(1991)、宮島・仁田(1995)、梅林(2017)などがある。

4) 本稿での先行構造は日本の研究などでは「先行語」という用語で表現されており、以下該当研究を引用する際には「先行語」という表現を使用するものとする。

名詞の四つの品詞に分けて分析を行った。

### 3.1 考察対象と方法

本稿の資料は『現代日本語書き言葉均衡コーパス(以下『BCCWJ』と記す)(2015年度版)を利用して、接続助詞(P.Conj)と接続詞(Conj)が隣接している接続連鎖を対象に調査し、その中で接続助詞に先行する要素を対象に調査を行った。その結果のうち、本稿では接続連鎖上位10種を対象に分析を行い、さらに各接続連鎖の中で、各上位50%以上を占める要素についてさらにその先行語には何が多く使われているのかをそれぞれ考察した。

## 4. 考察

ここでは日本語の接続連鎖の先行接続表現である接続助詞に先行する語形にはどのようなものがあるのかを調査し、接続連鎖の先行句の様相を明らかにする。まず接続連鎖は黒柳・劉(2018)が示したように以下の順番で多く使われていることが分かっている。

<表1> 黒柳・劉(2018)が示した接続連鎖の頻度表

順位	接続連鎖	件(%)	順位	接続連鎖	件(%)
1	-か+それでも	1554件(9.42)	6	-ば	625(3.8%)
2	-か+しかし	1492件(9.05)	7	-ながら	471(2.9%)
3	-し+また	1251件(7.59)	8	-から	432(2.6%)
4	-て+そして	1212件(7.35)	9	-つつ	85(0.5%)
5	-て+また	841件(5.10)	10	-ために	84(0.5%)

このうち本稿では全体の半数以上にあたる52.06%を占める上位10位までの接続連鎖の組み合わせを対象に詳しく調査を行い、接続連鎖の先行句の接続語形と意味機能別の品詞について様相を明らかにする。

#### 4.1 接続連鎖の先行語形

日本語における接続連鎖の先行語形を調査した結果をまとめると、以下の<表2・3>のように整理できる。<表2>は上位5種の先行語形を示したものであり、<表3>は6位から10位までの先行語形を示している。

<表2> 接続連鎖の先行語形上位5種

-が+それでも		-が+しかし		-し+また		-て+そして		-て+また	
先行形	件	先行形	件	先行形	件	先行形	件	先行形	件
た	560	た	316	ます	435	動詞	961	動詞	678
ます	138	だ	215	た	169	ます	143	ます	95
だ	137	ます	211	イ形	168	ている	34	ている	18
のです	124	動詞	153	動詞	134	有る	28	イ形	17
イ形	117	イ形	140	ません	61	イ形	27	有る	11

「-が+それでも」では「た」が最も多く先行している。「た」には一般的に「過去」の「た形」と考えられるが、この調査だけでは形式的にどのような形が来るのかはわかるが、具体的な品詞に関する情報を調べることはできなかった。続いては「ます」が138件で8.82%を占めたが、「ます」は動詞の活用形であろうことが容易に想像できるであろう。3位には「だ」の形が137件(8.75%)と2位の「ます」と1件の差を置いて続いているが、形式「だ」だけでは「ナ形容詞」の可能性もあれば、「名詞」に続く「だ」である場合もあり、動詞の過去形の中にも「だ」で終わる形態が存在しているので詳しく調べなければ分からない。その次には「のです」という形で124件(7.92%)が続き、これは動詞や形容詞などが接続可能であるために、詳しい調査が必要である。そして「イ形容詞」が117件で7.48%を占めて続いている。

接続連鎖において2番目に多かった「-が+しかし」では、「-が+それでも」と同様に「た」が最も多く316件で全体の20.94%を占め、続いて「だ」が215件(14.25%)、動詞類の「ます」が211件で13.98%と僅差で続いている。そして「動詞」が153件(10.14%)、「イ形容詞」が140件(9.23%)の順で続いている。「-し+また」では、動詞類の「ます」が435件で全体の34.66%を占めて一番多く、「た」が169件で13.47%、「イ形容詞」は168件(13.39%)であった。さらに「動詞」は134件(10.68%)で、「ます」の否定形である「ません」が61件(4.86%)と続いた。「-て+そして」では「動詞」が961件と全体の79.29%を占めて最も多く、続く「ます」は143件(11.80%)で、それ以下は「ている」が34件の2.81%、「有る」は28件(2.31%)で、「イ形容詞」は27件の2.23%で

あった。「-て+また」は、「動詞」が678件で80.62%を占め、動詞類の「ます」が95件の11.30%であった。さらに「ている」が18件(2.14%)、「イ形容詞」が17件(2.02%)、「有る」が11件(1.31%)と続いた。

<表3> 接続連鎖の先行語形6位から10位

-て+それから		-て+しかも		-と+また		-けれど+でも		-が+また	
先行形	件	先行形	件	先行形	件	先行形	件	先行形	件
動詞	565	動詞	359	動詞	259	イ形	61	た	87
ます	40	ている	103	イ形	21	た	59	ます	49
有る	23	イ形	66	ている	14	だ	56	のです	38
ている	13	有る	38	ます	14	のだ	50	です	30
居る	8	ます	28	である	5	動詞	17	動詞	18

6位以下の結果を見ると、「-て+それから」では「動詞」圧倒的に多く565件で全体の86.66%を占めている。「ます」や「ある」、「ている」や「居る」なども動詞として捉えることが可能であるために、接続連鎖「-て+それから」には「動詞」が先行する傾向が非常に強いことがわかる。続いて「-て+しかも」においても「動詞」やそれに準ずる要素が先行する中で、イ形容詞が66件で全体の10.22%を占めて3番目に多く接続していることがわかる。「-と+また」では「動詞」が259件で全体の80.19%を占めているが、2番目に多い「イ形容詞」は21件で割合は6.50%に過ぎず、接続連鎖「-と+また」でも「動詞」が先行しやすいということが調査された。接続連鎖9位の「-けれど+でも」の先行語では僅差であるが「イ形容詞」が最も多く2件差で「た」、「だ」、「のだ」が続き、「動詞」は17件で全体の5.57%であった。そして「-が+また」では他の「-が」類と同じく「た」が最もおおく87件で全体の29.90%を占めており、「動詞」類の「ます」が49件(16.84%)、「のです」が38件で13.06%、「です」が30件の10.31%、「動詞」は18件の6.19%であった。

しかしこれらの結果はコーパスにおいて定める分類法に基づいて区別したものであり、必ずしも統一された分類であるとは言い難いのが現実である。動詞などは個別に分類されていたわけではないために、上述の表において動詞の類は全て「動詞」としてまとめた結果であるように、一定の加工が必要であった。以下では各接続連鎖の接続助詞にどのような品詞が先行したのかを調査する。

## 4.2 先行語句の品詞分布

ここでは、前節で調べた各接続連鎖ごとに先行した各要素ごとに、さらにどのような品詞が先行していたのかを調査する。先行品詞は中俣(2017)で示された動詞、イ形容詞、ナ形容詞と名詞の四種を中心に調査した。

接続連鎖「-が+それでも」の各先行語形にどのような品詞が使用されたのかをまとめると以下の表のように整理できた。

〈表4〉 接続連鎖「-が+それでも」に先行する句の品詞

た		ます		だ		のです		イ形容詞)	
前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件
動詞	384	動詞	138	名詞	93	動詞	64	イ形	117
イ形	90	-	-	動詞	31	イ形	43	-	-
名詞	71	-	-	ナ形	10	名詞	15	-	-
ナ形	13	-	-	その他	3	ナ形	2	-	-
その他	2	-	-	-	-	-	-	-	-

「た」には「動詞」が384件で最も多く先行しており、全体の68.57%を占めている。続いて「イ形容詞」で90件(16.07%)、名詞は71件で12.68%、ナ形容詞は13件(2.32%)であった。「ます」には他の形態が接続することがないために138件全てが動詞であった。「だ」は名詞が93件で67.88%を占め、続いて動詞の31件(22.63%)、ナ形容詞が10件で7.30%であった。「のです」には動詞が最も多く先行し、64件で全体の51.61%であり、「イ形容詞」が43件(34.68%)で続き、「名詞」は15件で12.10%、ナ形容詞は2件(1.61%)であった。

接続連鎖「-が+しかし」の各先行語形にどのような品詞が使用されたのかをまとめると以下の表のように整理できた。

5) 5位の「イ形容詞」はそれ自体が一つの品詞を示しているために、その先行品詞は来ないためここでは何も示されていない。

&lt;表5&gt; 接続連鎖「-が+しかし」に先行する句の品詞

た		だ		ます		動詞 <sup>6)</sup>		イ形容詞	
前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件
動詞	262	名詞	93	動詞	211	動詞	153	イ形	140
イ形	33	動詞	88	-	-	-	-	-	-
名詞	14	ナ形	19	-	-	-	-	-	-
ナ形	7	イ形	14	-	-	-	-	-	-
-	-	その他	1	-	-	-	-	-	-

「た」には「動詞」が最も多く先行し、262件で全体の82.91%を占め、2位以下と大きく差を見せている。「イ形容詞」は33件で10.44%を、「名詞」は14件(4.43%)と続き、「ナ形容詞」は7件(2.21%)であった。「だ」には「名詞」が93件(43.26%)で最も多く、「動詞」は88件と続き、これは全体の40.93%であった。「ナ形容詞」は19件(8.84%)、「イ形容詞」は14件(6.51%)を占めた。「ます」には動詞のみが先行し、211件であった。

接続連鎖「-し+また」の各先行語形にどのような品詞が使用されたのかをまとめると以下の表のように整理できた。

&lt;表6&gt; 接続連鎖「-し+また」に先行する句の品詞

ます		た		動詞		イ形容詞		ません	
前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件
動詞	435	動詞	139	動詞	168	イ形	168	動詞	61
-	-	イ形	15	-	-	-	-	-	-
-	-	名詞	12	-	-	-	-	-	-
-	-	ナ形	3	-	-	-	-	-	-

接続連鎖「-し+また」に最も多く先行した「ます」は動詞の語形変化であるため、全件(435件)において動詞が先行した。「た」には動詞が最も多く接続し、139件で全体の八割を超える82.25%を占めた。「イ形容詞」は15件(8.88%)、名詞は12件(7.10%)で、「ナ形容詞」は3件(1.78%)であった。「動詞」と「イ形容詞」には先行品詞が存在せず、「ません」は「ます」同様に動詞が先行しており、61件全てが動詞であった。

6) 「動詞」はそれのみで品詞を示しているために、個別に先行品詞は表示しなかった。また、その形態は辞書形として語形活用の起きていないものであることを示している。

接続連鎖「-て+そして」の各先行語形にどのような品詞が使用されたのかをまとめると以下の表のように整理できた。

<表7> 接続連鎖「-て+そして」に先行する句の品詞

動詞		ます		ている		有る		イ形容詞	
前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件
動詞	961	動詞	143	動詞	34	動詞	28	イ形	27

接続連鎖「-て+そして」の先行語には「動詞」が最も多く接続しており、続く「ます」にも全件が動詞であった。「ている」にも先行したのは「動詞」のみであり、「有る」はそれ自身が「動詞」であり、「イ形容詞」も先行要素は存在しない。

接続連鎖「-て+また」の各先行語形にどのような品詞が使用されたのかをまとめると以下の表のように整理できた。

<表8> 接続連鎖「-て+また」に先行する句の品詞

動詞		ます		ている		イ形容詞		有る	
前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件
動詞	628	動詞	95	動詞	18	イ形	17	動詞	11

接続連鎖「-て+また」には先行語として「動詞」が最も多く接続している。同じ「て接続」である「-て+そして」と上位5種は同じであり、「ます」が二番目に多く、次いで「ている」が来ている点は同じであるが、「イ形容詞」が四番目に多く、続いて「有る」となっている点で異なっている。

接続連鎖「-て+それから」の各先行語形にどのような品詞が使用されたのかをまとめると以下の表のように整理できた。

<表9> 接続連鎖「-て+それから」に先行する句の品詞

動詞		ます		有る		ている		居る	
前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件
動詞	565	動詞	40	動詞	23	動詞	13	動詞	8

ここでも「動詞」が565件と最も多く先行し、二番目に多い「ます」は40件にすぎなかった。

以下は「有る」が23件で動詞であり、「ている」は13件で先行品詞は全てが動詞であり、「居る」が8件でこれも動詞である。

接続連鎖「-て+しかも」の各先行語形にどのような品詞が使用されたのかをまとめると以下の表のように整理できた。

<表10> 接続連鎖「-て+しかも」に先行する句の品詞

動詞		ている		イ形容詞		有る		ます	
前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件
動詞	359	動詞	103	イ形	66	動詞	38	動詞	28

やはり「動詞」が最も多いが359件で、次いで「ている」には動詞のみが103件、さらに「イ形容詞」は66件で、「有る」には動詞が38件、「ます」にも動詞が28件続いた。

接続連鎖「-と+また」の各先行語形にどのような品詞が使用されたのかをまとめると以下の表のように整理できた。

<表11> 接続連鎖「-と+また」に先行する句の品詞

動詞		イ形容詞		ている		ます		である	
前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件
動詞	259	イ形	21	動詞	14	動詞	14	名詞	5

ここでは「動詞」が最も多く259件であり、「イ形容詞」が21件に留まった。「ている」には全て動詞が先行しており、これは「ます」に先行する動詞と同数の14件であった。「である」には名詞が5件にすぎなかった。

接続連鎖「-けれど+でも」の各先行語形にどのような品詞が使用されたのかをまとめると以下の表のように整理できた。

<表12> 接続連鎖「-けれど+でも」に先行する句の品詞

イ形容詞		た		だ		のだ		動詞	
前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件	前品詞	件
イ形	61	動詞	36	名詞	24	動詞	28	動詞	17
-	-	イ形	17	ナ形	12	イ形	16	-	-
-	-	名詞	4	動詞	8	ナ形	3	-	-
-	-	ナ形	1	イ形	6	名詞	2	-	-

ここでは比較的多種の品詞が見られるが、「イ形容詞」は61件で最も多く、「た」と「だ」、そして「のだ」には全種の品詞が先行した。「た」には動詞が36件(61.02%)、イ形容詞が17件(28.81%)、名詞が4件(6.78%)、ナ形容詞が1件(1.69%)であった。「だ」は名詞が24件(42.86%)で最も多く、次いでナ形容詞が12件(21.43%)、動詞が8件(14.29%)、イ形容詞が6件(10.71%)であり、「のだ」には動詞が28件(56.00%)で最も多く、イ形容詞が16件(32.00%)、ナ形容詞が3件(6.00%)、名詞が2件(4.00%)であった。そして「動詞」が17件と続いた。

接続連鎖「-が+また」の各先行語形にどのような品詞が使用されたのかをまとめると以下の表のように整理できた。

<表13> 接続連鎖「-が+また」に先行する句の品詞

た		ます		のです		です		動詞	
前品詞	件								
動詞	79	動詞	49	動詞	26	名詞	20	動詞	18
名詞	4	-	-	イ形	5	動詞	5	-	-
イ形	3	-	-	名詞	5	イ形	2	-	-
ナ形	1	-	-	ナ形	2	ナ形	2	-	-

最も多く現れたのは「た」で、そこに先行した品詞は動詞が79件(90.80%)で九割を超え、名詞が4件(4.60%)、イ形容詞が3件(3.45%)、ナ形容詞が1件(1.15%)であった。次に多かったのは「ます」で動詞が49件先行し、「のです」には動詞が26件(68.42%)、イ形容詞と名詞がそれぞれ5件(13.16%)ずつ、そしてナ形容詞が2件(5.26%)であった。「です」には名詞が20件(66.67%)、動詞が5件(16.67%)、イ形容詞とナ形容詞がそれぞれ2件(6.67%)ずつであり、次いで「動詞」が18件であった。

### 4.3 先行句品詞の調査結果

ここでは、接続連鎖に先行する先行句の品詞について調査を行い、その結果を品詞の分布、接続類型、そして意味機能ごとに提示し、考察する。

#### 4.3.1 接続連鎖の類型別

ここでは接続連鎖の上位10種に先行した品詞を対象に調査を行い、その結果を表にまとめると以下のように示すことができた。

&lt;表14&gt; 接続連鎖上位10種の先行句品詞分布

接続連鎖上位10種		
先行続品詞	頻度数(件)	比率(%)
動詞	6718	78.12
イ形容詞	969	11.27
名詞	740	8.60
ナ形容詞	167	1.94
その他	67)	0.07

接続連鎖上位10種において最も多く先行した品詞は「動詞」が6718件で全体の八割近い78.12%を占めて、接続連鎖には「動詞」が先行しやすい傾向があることが伺えた。それ以外の品詞に関しては以下の通りで、「イ形容詞」が969件で11.27%となり、次いで「名詞」が740件で8.60%、「ナ形容詞」は167件の1.94%にとどまった。

以下では上述の結果を先行研究で示された先行語品詞との比較を通して、接続連鎖における先行語品詞の様相について調査してみようと思う。

#### 4.3.2 接続連鎖類型別

ここでは、先行研究で示された先行語と本稿で調査された接続語を比較することを目的に、まずは、先行語の先行研究として挙げた中俣(2017)に示されている接続助詞とそれに続く品詞の割合を示すと以下の表のようになる。

&lt;表15&gt; 中俣(2017)の接続助詞の先行語の品詞別出現度数と割合の一部引用 ( )内は%

	語	動詞	イ形容詞	ナ形容詞	名詞	合計
B類	と	224,576(94.5)	4,259(1.8)	1,031(0.4)	7,984(3.4)	237,850
C類	が	238,054(64.1)	21,456(5.8)	42,411(11.4)	69,403(18.7)	371,324
	し	38,412(63.8)	9,441(15.7)	4,353(7.2)	7,962(13.2)	60,168
	けど	52,888(64.0)	10,513(12.7)	5,633(6.8)	13,558(16.4)	82,592

7) その他には以下のような文章が含まれている。

- (1) 状況はいまだ危険(かつ不可解)なままだがそれでも安心を感じ、もう一度、桂木さん!
- (2) ジマンするほどのことじゃないと知ったのは住み始めてからだが、それでも7軒の共同とはいえ自分の家にプールがあるというのは便利である。

続いて本稿で抽出された接続連鎖を接続助詞別に再分類し(\*\*)、接続種ごとにどのような品詞が先行されたのかに関して出現回数と割合を示すと以下の表のように整理することができる。

<表16> 接続連鎖の先行語の品詞別出現回数と割合

接続型	動詞	イ形容詞	ナ形容詞	名詞	合計
と接続	291(90.09)	23(7.12)	0(0)	9(2.79)	323
が接続	2190(65.10)	475(14.12)	116(3.45)	577(17.15)	3358
し接続	833(66.37)	265(21.12)	39(3.11)	118(9.40)	1255
けど接続	129(42.16)	111(36.27)	20(6.54)	46(15.03)	306
て接続 <sup>8)</sup>	3225(96.24)	126(3.91)	0(0)	0(0)	3351

接続連鎖「と接続」には動詞が最も多く先行しており、291件で90.09%を占め、全体の九割を超えていた。続いて多かったのはイ形容詞であるが、その数は23件で全体の7.12%に過ぎず、名詞は9件で、2.79%にとどまった。「と接続」においてはナ形容詞は検出例が見つからなかった。

接続連鎖「が接続」にはやはり動詞が最も多く先行したが、2190件の65.10%を占めて他の品詞よりも多かったが、「と接続」に比べるとその割合は2割以上も少なくなっている。続いては名詞が577件で17.15%であり、イ形容詞は475件の14.12%であった。ナ形容詞は最も少なかったが116件であり、全体の3.45%をお占めた。

接続連鎖「し接続」においては、動詞が833件で66.37%を占めて最も多く、イ形容詞は285件で21.12%であった。続いては名詞が118件(9.40%)で、ナ形容詞は39件で3.11%であった。

接続連鎖「けど接続」では、動詞が最も多く129件で42.16%であったが、続くイ形容詞との差は5.89%で111件であり、名詞は46件の15.03%で、ナ形容詞は20件の6.54%であった。

そして接続連鎖「て接続」では動詞が全体の96.24%で3225件であり、イ形容詞が126件で3.91%を占めた。ナ形容詞と名詞は「て接続」においては検出例がなかった。

これらの結果を中俣(2017)と比べると以下のようにまとめられた。「と接続」では動詞が4.41%低かったがイ形容詞が5.32%高くなった。また、ナ形容詞は本研究では検出されなく、名詞は0.61%とわずかに低く現れた。「が」の先行における動詞の割合は64.1%である点と名詞が18.7%である点を考えると、先行研究と同じであると言えるが、本稿の結果を比べ

8) 中俣(2017)では「て」を対象外にしている。

るとイ形容詞の割合が高く、ナ形容詞の比率が低く現れた。「し接続」ではイ形容詞は高くなり、名詞とナ形容詞は4%程低くなっている。「けど接続」では動詞が21.84%も低くなっており、イ形容詞は反対に23.57%も多くなっていた。ナ形容詞は0.26%とほぼ同等であり、名詞の差も1.36%に留まった。

#### 4.4 意味機能ごとの先行句品詞

この節では各接続連鎖を接続助詞別に整理して、その意味的機能による品詞の出現にどのような差が見られるのかを観察する。まずは接続助詞「-と」を含む接続連鎖の類の結果を以下の表に示した。

<表17> 接続連鎖「と接続」の意味機能ごとの先行句品詞

意味機能	動詞	イ形容詞	ナ形容詞	名詞	合計
継起	288(90.00)	23(7.19)	0(0)	9(2.81)	320(99.07)
因果	3(100)	0(0)	0(0)	0(0)	3(0.93)
合計	291(90.10)	23(7.12)	0(0)	9(2.79)	323(100)

接続連鎖のうち「と接続」類の意味機能には「継起」と「因果」があり、「継起」では全320件(全体比99.07%)のうち動詞が288件で90.00%を占めた。次に多かったのはイ形容詞であったが、23件で全体の7.19%に過ぎず、名詞はわずか9件の2.81%であった。ナ形容詞は今回の調査では「継起」の意味機能では検出されなかった。次に「因果」は検出件数が3件しか存在せず、単純な比較は難しいが、3件全てが動詞であった。

このことから、「と接続」においては意味機能の如何に関わらず動詞が最も多く、ナ形容詞はいずれの意味機能においても使われなかったことがわかった。そして意味機能別における品詞の出現割合を見ると「因果」では「動詞」のみが現れているが、「継起」における「動詞」意外の出現率は2.81~7.19%に過ぎないことが判明した。

続いては接続助詞「-が」を含む接続連鎖の類の結果を以下の表に示した。

&lt;表18&gt; 接続連鎖「が接続」の意味機能ごとの先行句品詞

意味機能	動詞	イ形容詞	ナ形容詞	名詞	合計
付加	1019(65.60)	187(12.04)	78(5.02)	269(17.32)	1553(46.17)
譲歩	1127(63.93)	289(16.39)	39(2.21)	308(17.47)	1763(52.40)
継起	48(100)	0(0)	0(0)	0(0)	48(1.43)
合計	2194(65.22)	476(14.15)	117(3.48)	577(17.15)	3364(100)

接続連鎖のうち「が接続」類の意味機能には「付加」と「譲歩」、そして「継起」の三種類があるが、「付加」では全1553件(全体比46.17%)のうち動詞が全体の65.60%を占める1019件であった。続いて名詞が多く269件で17.32%を占めた。イ形容詞は187件で12.04%、ナ形容詞は78件(5.02%)であった。「譲歩」では全1763件(全体比52.40%)のうち動詞が1127件で全体の63.93%を占め、次いで名詞が308件の17.47%であった。その後にイ形容詞が289件の16.39%で続き、ナ形容詞は39件の2.21%であった。意味機能のうち、これら二種で全体の98.57%を占めているが、残りの「継起」では動詞のみが48件(全体比1.43%)検出された。

このことから、「が接続」では意味機能「付加」と「譲歩」においては動詞、名詞、イ形容詞、ナ形容詞の順で多く現れることが分かり、「継起」では動詞のみが先行接続することがわかった。

続いては接続助詞「-し」を含む接続連鎖の類の結果を以下の以下の表に示した。

&lt;表19&gt; 接続連鎖「し接続」の意味機能ごとの先行句品詞

意味機能	動詞	イ形容詞	ナ形容詞	名詞	合計
付加	779(65.46)	254(21.34)	39(3.28)	118(9.92)	1190(94.82)
因果	45(88.24)	6(11.76)	0(0)	0(0)	51(4.06)
継起	9(64.39)	5(35.71)	0(0)	0(0)	14(1.12)
合計	833(66.37)	265(21.12)	39(3.11)	118(9.40)	1255(100)

接続連鎖のうち「し接続」類の意味機能には「付加」と「因果」、そして「継起」があり、「付加」では全1190件(全体比94.82%)のうち動詞が最も多く779件で65.46%を占めた。そしてイ形容詞の254件(21.34%)、動詞が118件で9.92%、ナ形容詞が39件の3.28%と続いた。「因果」においては全51件(全体比4.06%)のうち、動詞が最も多く45件で88.24%を占めた一方、イ形容詞は6件の11.76%であり、ナ形容詞や名詞は「因果」では検出されなかった。そして「継起」は全14件(全体比1.12%)のうち動詞が9件で64.39%を占め、残りはイ形容詞5件の35.71%であり、ナ

形容詞と名詞は検出されずに0件であった。

「し接続」においては、「付加」では動詞、イ形容詞、名詞、ナ形容詞の順で多く検出されたが、「因果」と「継起」には動詞とイ形容詞のみが現れ、どちらもナ形容詞と名詞は1件もなかった。動詞は「付加」と「継起」において65%前後(64.39-65.46%)を示しているが、「因果」においては88.24%と、その差は22.78%ほどであり、他の意味機能に比べて「因果」では動詞が先行しやすい傾向にあることがわかった。

続いて接続助詞「-けど」を含む接続連鎖の類の結果を以下の表に示した。

<表20> 接続連鎖「けど接続」の意味機能ごとの先行句品詞

意味機能	動詞	イ形容詞	ナ形容詞	名詞	合計
付加	68(40.72)	59(35.33)	15(8.98)	25(14.97)	167(54.58)
譲歩	61(43.88)	52(37.41)	5(3.60)	21(15.11)	139(45.42)
合計	129(42.16)	111(36.27)	20(6.54)	46(15.03)	306(100)

接続連鎖のうち「けど接続」類の意味機能には「付加」と「譲歩」があり、「付加」では全167件(全体比54.58%)のうち動詞が68件で40.72%を占め、イ形容詞は59件(35.33%)であった。続いて名詞が25件で14.97%であり、ナ形容詞は15件の8.98%であった。一方の「譲歩」では前139件のうち、同じく動詞の割合が最も多く61件で43.88%を占め、続いてイ形容詞が52件で37.41%であった。さらに名詞が21件で15.11%と続き、ナ形容詞は5件の3.60%に留まった。

「けど」接続においては意味機能の如何に関わらず動詞、イ形容詞、名詞、ナ形容詞の順で多く先行していることがわかった。さらに動詞とイ形容詞はどちらも「譲歩」が「付加」よりも2.08~3.16%ほど多く現れた反面、ナ形容詞は「譲歩」において5.38%少ない結果になった。名詞の割合は両者間に0.14%の差しかなかった。

続いて接続助詞「-て」を宇組む接続連鎖の類の結果を以下の<表21>に示した。

<表21> 接続連鎖「て接続」の意味機能ごとの先行句品詞

意味機能	動詞	イ形容詞	ナ形容詞	名詞	合計
継起	2010(99.70)	6(0.30)	0(0)	0(0)	2016(60.16)
付加	876(89.41)	104(10.59)	0(0)	0(0)	980(29.25)
因果	229(95.42)	11(4.58)	0(0)	0(0)	240(7.16)
同時	110(95.65)	5(4.35)	0(0)	0(0)	115(3.43)
合計	3225(96.24)	126(3.76)	0(0)	0(0)	3351(100)

接続連鎖「て接続」においては、ナ形容詞と名詞が先行する例は1件も見当たらなかった。また全3351件のうち、動詞が先行した例が3225件で全体の96.24%を占め、残りをイ形容詞が占めた。意味機能のうち、「継起」が最も多く検出され、2010件で全体の99.70%が動詞であり、イ形容詞は6件の0.30%に過ぎなかった。続く「付加」では876件の89.41%が動詞であり、残りの104件(10.59%)がイ形容詞であった。さらに「因果」は229件の95.42%が動詞で、イ形容詞は11件の4.58%であり、「同時」では動詞が110件(95.65%)のイ形容詞が5件(4.35%)であった。

## 5. おわりに

本稿は接続連鎖に先行して現れる語句の形態と品詞を考察することを目的に『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を対象に接続連鎖の上位10種類を研究範囲として、まず接続連鎖に先行する語形を抽出した。そして品詞の判別に必要な先行句を更に調査して先行句の品詞分布を考察した結果、以下の事実が確認できた。

接続連鎖「が接続」では先行語形として「た」が最も共起しやすく、「し接続」においては動詞の活用形である「ます」が一番多く共起していた。「て接続」は先行語形としては動詞の辞書形が最も多く位置しており、次いで「ます」と「ている」が共起している。「と接続」では動詞の辞書形が八割以上の比率で共起しており、続く「イ形容詞」は一割以下であった。「て接続」と「と接続」には他接続では多く見られた「た」は接続の制約のために見受けられなかった。そして「けれど接続」では他接続とは異なり、「イ形容詞」が最も多く共起し、二番目の「た」との差もわずか2件であり、次いで「だ」と「のだ」の語形が続いた。

先行句の品詞を詳しく調べた結果、接続連鎖においては動詞が最も先行しやすく、これは中俣(2017)とも一致する結果となった。一方、中俣(2017)が細分しているB類に属する接続助詞「-と」の結果は本稿でも大方で一致しており、動詞が九割以上で圧倒的に多く共起しているが、中俣(2017)では取り扱わなかった「て接続」においても、これと類似する結果が現れた。さらにC類に分類される「が」、「し」、「けど」は動詞が先行する割合が60%前後としているが、本稿の結果では「が」と「し」は65%前後と大方一致していたが、「けど」においては42%と大幅に低くなった。

最後に意味機能ごとの先行句品詞を見ると、「継起」ではナ形容詞が全く検出されず、継

起の意味機能ではナ形容詞と共起しにくいことが分かった。「因果」ではナ形容詞と名詞が共起しにくく、イ形容詞はやや共起しにくいことが分かった。「讓歩」では動詞、イ形容詞、名詞とは共起しやすいが、ナ形容詞とはやや共起しにくく、「付加」は動詞、イ形容詞、名詞とは共起されるが、ナ形容詞とは共起されにくいことがわかり、「讓歩」と「付加」では類似した結果となった。「同時」は動詞と非常に共起しやすく、イ形容詞とは非常に共起しにくいことが分かった。

本研究では接続連鎖全体の半数を対象にしたものであったために、接続連鎖全体の様相を明らかにするには限界があり、今後は範囲を拡大して接続連鎖全体を対象に調査を行い、接続連鎖の先行様相の解明を行いたい。また、接続連鎖は接続表現が二種類存在している韓国語においても見られる現象であり、両言語での接続連鎖先行句の様相を明らかにするためには日韓比較を行う必要がある。

### 【参考文献】

- 石黒圭(2008)『文章は接続詞で決まる』光文社  
 梅林博人(2017)「滑稽本の接続詞「しかし」について」『表現研究』105、表現学会、pp.1-10  
 江口匠(2018)「コソ已然形節から逆接コスレ節へ」『日本語日本文学』14、学習院大学、pp.21-46  
 加藤薫(1991)「「逆接」の接続詞についての一考察-「しかし」系の接続詞を中心として」『国語学研究と資料』15、国語学研究と資料の会、pp.33-45  
 黒柳子生・劉(2018)「接続連鎖現象の日韓比較に関する一考察」『日本近代学研究』61、韓國日本近代學會、pp.7-27  
 中俣尚己(2017)「接続助詞の先行語に見られる品詞の偏り-コーパスから見える南モデル-」『日本語の研究』13(4)、日本語学会、pp.1-17  
 前田直子(2017)「順接条件節「なら」の接続形態」『現代日本語研究』9、大阪大学、pp.23-39  
 宮島達夫・仁田義雄(1995)『日本語類義表現の文法(下)』くろしお出版

### 【使用コーパス】

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(2015年版)([pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/bccwj/](http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/))

---

논문투고일 : 2020년 06월 20일  
 심사개시일 : 2020년 07월 15일  
 1차 수정일 : 2020년 08월 04일  
 2차 수정일 : 2020년 08월 10일  
 게재확정일 : 2020년 08월 20일

---

 < 要 旨 >
 

---

## 日本語接続連鎖の先行構造に関する一考察

黒柳子生・劉錫勳

本稿では『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を対象に、接続連鎖現象に先行して現れる構造を抽出し、その語句形態や品詞などの出現様相について調査・考察する。コーパス資料からの語形抽出では「た」や「だ」、そして「のです」などの形態が抽出されたが、これらの形態は先行品詞に動詞、イ形容詞、ナ形容詞、名詞の四つの品詞が全て位置することができるために、さらに先行語句を調査して品詞を確定した。

しかし先行語形だけではその語形が持つ品詞の判断ができないものが多く抽出されたために、ここでは先行する語形に先行する語句の品詞を調べ、それらを動詞、イ形容詞、ナ形容詞、名詞の四つの品詞に分けて分析を行った。

調査の結果、接続連鎖の先行品詞は動詞(78.12%)、イ形容詞(11.27%)、名詞(8.60%)、ナ形容詞(1.94%)の順で多いことが分かった。意味機能別にみると、「継起」ではナ形容詞が検出されず共起しにくいことが分かった。「因果」ではナ形容詞と名詞が共起しにくく、「譲歩」と「付加」ではナ形容詞があまり共起されておらず、「同時」では動詞が共起しやすく、イ形容詞はやや共起されることが分かった。

## A study on pre-C.C. constructs in Japanese

*Kuronayagi, Shigeo·You, Seok-Hoon*

This study aims to research and to extract the pre-Conjunctive Concatenation Constructs from Japanese Corpus "BCCWJ", and to consider occurrence patterns of morphological forms and lexical categories in Japanese Conjunctive Concatenation. Through extracting data of BCCWJ, just lexical forms 'ta', 'da' and 'no-desu' were extracted. However, in front of these lexical forms could be placed four lexical categories, 'verb', 'I-adjective', 'Na-adjective' and 'noun'.

However, since many of the extracted words cannot be identified the lexical categories by the preceding word form alone, the part of speech of the preceding word form was investigated. We analyzed them by dividing them into four parts of speech: verbs, adjectives, na-adjectives, and nouns.

As a result of the survey, it was found that the preceding part-of-speech in the connection chain was verb (78.12%), adjective (11.27%), noun (8.60%), and na-adjective (1.94%). By the meaning and function, it was found that the na-adjectives were not detected in "successive" and it was difficult to co-occur. "Causal" is difficult to co-occur with the Na-adjectives and nouns, "concession" and "addition" are less co-occurring with the Na-adjectives, and "simultaneous" is more likely to co-occur with the verbs, and the I-adjective is slightly co-occurring.